

「コミュニティサイト」も危険？ 使い方次第で 大きなトラブルに

「未成年を狙った犯罪」は、子供たちに関係するネットトラブルの中で、特に気を付けなくてはならないもののひとつです。それを防ぐためにどのような知識が必要なのでしょうか。

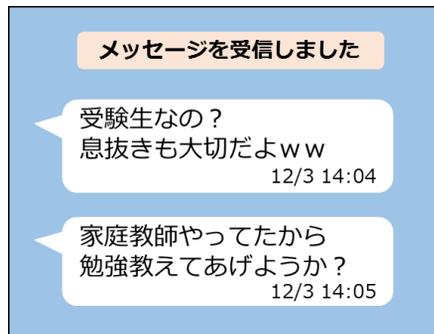


今、気を付けなくてはいけないのは「コミュニティサイト」

今年10月の警察庁の発表によると、平成27年上半期のインターネットに起因する犯罪の被害児童のうち、一般的に危険だと思われる「出会い系サイト」に起因したものが48人（前年同時期比34人減）であったのに対して、子供たちが日常的に利用しているSNSや掲示板などの「コミュニティサイト」に起因したものが796人（前年同時期比98人増）となっており、今、気を付けるべきは「コミュニティサイト」の利用の仕方であることがわかります。

悪い大人の手口

コミュニティサイトは他人と交流することを目的に作られています。利用する側の子供たちは、「友達を増やせるかもしれない」、「素敵な人と知り合えるかもしれない」という期待から、相手を信用し安易に個人情報を公開するなどして、危険に身をさらすことも少なくありません。また、それに乗じて、悪意を持った大人が「色々な遊びを知っている面白い人」や「相談に乗ってくれる優しい人」などのふりをしたり、年齢や性別を偽ったりするなどして近づき、子供たちが犯罪に巻き込まれるケースが多く起きています。



※リアルタイムでチャットができるサイトでの被害件数も増えています

指導の要点

依然として増加しているインターネットを通じた性犯罪などの被害から子供たちを守るためには、「ネット上で知り合った人とは直接会わない」、「知らない人に個人情報や写真を送らない」という当たり前のことを指導するだけではなく、なぜそうしてはいけないのかを子供たち自身が考える機会を作ることが大切です。

「自分は大丈夫」だと思っている子供たちに、「会うことは危険だとわかっているけど、この人なら安心！」という油断から犯罪に巻き込まれていること、送ってしまった写真はもう取り戻せないだけではなく、嫌がらせや脅迫等の材料になりかねないこと、そして、そのきっかけは普段使っているコミュニティサイトが利用されているケースが多いことを、実感させることが大切です。